

## 武州一揆 今年で150年

市民学芸員 稲植 保美

江戸時代末期の慶応2年(1866)6月13日に起こった武州一揆は、「武州世直し一揆」「打ちこわし」ともいわれます。今年6月で一揆が起きて150年になりました。

これを機に地元の飯能市・日高市の郷土史家らがこの一揆を語り継ぐと記念集会を開き、慰霊法要や講演会などを開催しました。

一揆は上名栗村(現飯能市)の百姓・大工職人嶋田紋次郎と、百姓・桶職人新井豊五郎および下成木村(現青梅市)の組頭鈴木喜左衛門を中心に、貧農らが決起しました。7日間で鎮圧されましたが、武蔵国15郡、上野国(群馬県)2郡に広がりました。参加者は当初300人でしたが、やがて10万人を超えました。打ちこわしをうけたのは約200村の520家でした。その対象は生糸貿易商・質屋・穀屋などの在郷商人や豪農、村役人などでした。

一揆勢は、穀類の値下げ、質物の無償返還、助郷・伝馬人足など課役の撤廃を要求しました。

一揆が起きた地方である上名栗村・下成木村などの山村部は、材木生産地帯であり、穀類を買入れざるを得ない人々が多くいました。当時の米価は前年の2倍、麦価は3倍になっており厳しい生活を強いられていました。

また農村部は、畑作村落として生糸・絹織物・木綿織などの生産地域でした。とくに生糸は輸出品として出荷されましたが、値段の上下が著しく、ひとたび下落すると農家は不況のどん底に追い込まれる不安定な状況でした。

当時は、安政5年(1858)の開国から8年、この間には安政の大獄、桜田門外の変、生麦事件、薩英戦争、長州征伐などがあり、まさに激動の時代でした。

富士見市域にも6月15日、一揆勢が押し寄せ、以下の5軒が打ちこわしに遭っています。

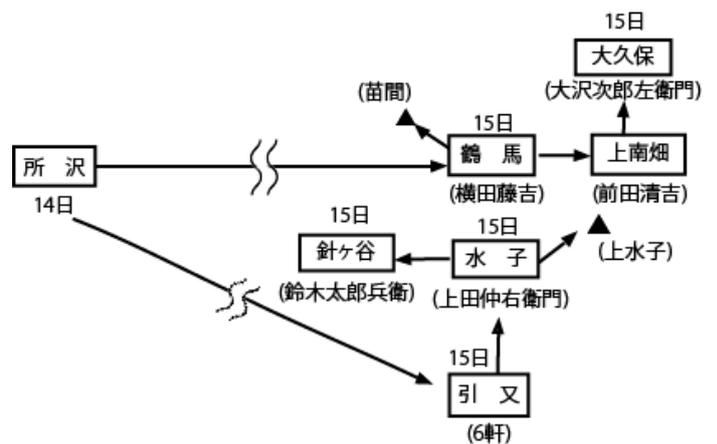
鶴馬村の組頭を務めた醤油醸造の妻屋こと横田家、針ヶ谷村の名主を務めた醤油醸造の鈴木家、上南畑村の蛇木河岸問屋の前田家、大久保村の名主を務めた大澤家、水子村の上田家です。



大澤家長屋門



傷つけられた柱  
(副木を当ててある)



▲酒食などを施したので打ちこわしにあわなかった家  
市内の打ちこわし経路  
「富士見のあゆみ」264頁より

被害状況は、横田家と大澤家についてはよく知られていますが、その他については不明な点が多いといわれています。東大久保の大澤家長屋門(市指定有形文化財)には刃物傷が残されていたといえます。

経済不安に端を発した一揆は、6月19日には鎮圧されました。その後、領主や豪農らによって救済対策が実施されましたが、村々の経済は依然不安定なままでした。明治に入ると、こうした情勢を背景に、自由民権運動が起こります。そして明治17年(1884)には秩父事件が起きることとなります。

(参考文献 「図説日本の百姓一揆」 民衆社)

市民学芸員のページ \*このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

古民家シリーズ⑥ 大澤綾さんに聞くーその一 『大澤家のご先祖は美濃の国!』

難波田城公園に移築された古民家の一つに旧大澤家住宅があります。大澤家先代当主の誠一さんと昭和二十二年(1947)にご結婚された大澤綾さんから先日、お話を伺うことができました。その中から今回は、大澤家のご先祖に関するお話をご紹介します。

○大澤家は戦国時代に移住されて来たとのことですが

「先祖は美濃の国の出で、斎藤龍興たつおきに属する豪族で、また鶴沼城うぬま(註)にも関係していたようです。しかし、織田信長のために城を追われ、小田原北条氏の配下となりましたが、ここでも戦に敗れて、天正十八年(1590)、こちらに逃れてきたと聞いております。その際は、今の当家の道路の向こうに見えた高野さんの灯りを頼りに宿を乞い、その後、この地に定住した、と伝え聞いています」

○お宅の作りは名主の家のような造りですが

「この地に移り住んだ後、江戸時代には代々大久保村の名主を務めていました。現在、大澤家は息子の誠が継ぎ、十九代目になります」

江戸期に、名主級の農家が出現する一端を垣間見られるお話でした。

(文責 研修・交流班) 参考文献・南畑村之沿革史

註 岐阜県各務原市木曾川北岸にあった山城。城主は大沢氏であった。



旧大澤家住宅



岐阜県

鶴沼城

おもしろ・なつかし体験⑤1

シュロの葉バツタ

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

シュロの細かく分かれた葉1本を細工していくと1匹のバツタを作ることができます。50本ほどの葉を用意して、いざ開始です。1時の始まりを待ちきれなかった家族連れ数組に、葉を3本に裂き、芯で輪を作り、手前の1枚を輪にくぐらせ…と組み方を見せていきます。大人も子どもも、自分のことに必死で、他の人に気がまわりません。

先生役の市民学芸員は、小さな子ども達への目配りや、次々やって来る方々へ裂き方を教えたりと大忙しでした。虫の胴体が組めたら、輪の芯を引き絞って頭を作り、触角、尾をはさみで整え、

足をつけ、竹の台に立て、なんばったの旗を添えれば見事なバツタの置物の完成です。作り方を覚えると、もう1匹と、次々作り出し、50本の葉では足りなくなり、あわてて園内のシュロの葉を取りに行きました。

参加者24人ほとんどの方が、資料館のホームページなどでシュロの葉バツタ作りのイベントを知り、これを目当てに参加したとのことでした。

(清水澄子)



完成したシュロの葉バツタ

## 人の創ったもの★人の使ったもの

なんばたはちまん

### 南畑八幡神社の獅子舞

穀蔵テーマ展示

8月6日から1年間

#### 神社と獅子舞の歴史

開催中の穀蔵テーマ展示では、下南畑地区（旧下南畑村）の鎮守である南畑八幡神社に伝わる獅子舞の道具一式を展示しています。南畑八幡神社獅子舞保存会からお借りしたものです。



左より、中獅子・女獅子・男獅子  
獅子頭は、龍頭形。頭髪は鶴の羽と馬の毛を使用。男獅子が父、女獅子が母、中獅子が息子と伝えられる。  
※会期中、祭礼などで「里帰り」します。(初回は 10/6 から 1 週間)

同神社の創立年を記す史料はありませんが、応永 7 年(1400)、足利満兼が鎌倉の鶴岡八幡宮に当地を社領として寄進した時に、分祀されたともいわれます。また、難波田城の鬼門を守る位置にあたることから、天文(1532-1555)の頃、この地を治めた難波田弾正が厚く崇敬したともいわれます。

当神社では少なくとも江戸時代末から 150 年以上、八幡地区と馬場地区の人々が獅子舞を受け継ぎ、年 3 回の祭礼（春祈禱：3/15、合祀された八雲神社祭礼「天王様」：7/14、お日待ち：10/15）で奉納してきました。（神様の前で舞うことを奉納といいます）

昭和 30 年代(1955-64)に後継者不足のため中断しましたが、昭和 48 年(1973)に復活、獅子舞保存会を結成しました。そして残念なことに、再び平成 25 年(2013)から後継者不足のため休止しています。

#### 市内 2 カ所に伝わる三匹獅子舞の由来

市内には他に、鶴馬の渡戸地区の人々が受け継いでいる「諏訪神社の獅子舞」があります。どちらも山の神の先導により三頭の獅子が一組になって舞うもので、獅子頭が龍頭形であること、「女獅子隠し」（隠された母を父と息子が探す）を主題とする内容や舞の構成、歌詞などもほとんど同じです。いずれも起源は不詳ですが、諏訪神社の獅子舞にはこんな言い伝えがあります。

太田道灌(1432-86)が、江戸城の外城の候補だった鶴馬を訪れたとき、多くの村人が疫病で苦しんでいた。道灌の家来は村人に獅子頭と山の神の面を与え、獅子舞を

このコーナーでは、地元には伝わる資料を紹介しません。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

教えた。村人が獅子舞を奉納すると、疫病が収まった。

年代が確かな文書では 1799 年の連印帳があります。一方、八幡神社の獅子舞は、諏訪神社の獅子舞に教わったと伝えられますが、時期は不明です。

#### 獅子舞の役

役はいずれも男性が担います。男獅子・女獅子・中獅子・山の神は各 1 人。年齢は、動きの激しい獅子は 20~30 才ですが、山の神は 60 才くらいまでできます。この 4 役は長男限定でしたが、昭和 48 年の復活後は限定がなくなりました。ササラッ子は小学生 2 人、笛方・歌方は年齢制限なく 5~15 人程度。高万灯は 2 人です。

#### 三匹獅子舞の分布と特徴

獅子舞は日本で最も数が多い民俗芸能といわれています。三匹獅子舞は 1 人で 1 匹の獅子を演じる「一人立の獅子舞」の一つで、中世から近世にかけて成立した風流踊の系統です。頭上に獅子頭をのせ、腹部に太鼓を付けて踊ります。東日本に広く分布し、その数は 1,400 カ所以上にのぼります。一方、西日本では福井県小浜市に数カ所あるだけです。埼玉県では 200 カ所以上（中断・廃絶も含む）で伝承しています。群馬県（250 カ所以上）に次いで多い数字です。

穀蔵展示室では獅子舞の映像も見られます。間近ではなかなか見られない獅子頭や山の神の面などをこの機会にぜひご覧ください。（駒木敦子）



お庭節(2013 年、生涯学習課撮影)

神社の荘厳さをたたえる曲。3 頭の獅子と山の神が頭を突き合わせる姿は「氏子が心をついにしよう。そうすれば悪霊も寄せ付けない」という意味が込められている。

## \* \* 秋のイベント予定 \* \*

### ●社会科展

市内小・中・特別支援学校の子どもたちが夏休みに取り組んだ社会科の研究作品を展示します。

会期／9月17日(土)～9月25日(日)

会場／特別展示室

### ●平成 28 年秋季企画展

#### 『富士見』還暦 -3 村合併から 60 年-

昭和 31 年(1956)年 9 月 30 日、鶴瀬、水谷、南畑の三村が合併して「富士見村」が誕生しました。今年で満 60 年、人間にたとえると還暦です。

当時の合併の経緯や、生活の変化を伝える資料の展示を行います。

会期／9月30日(金)～1月9日(祝)

会場／特別展示室

### ●穀蔵テーマ展示「南畑八幡神社の獅子舞」

市内の下南畑地区にある南畑八幡神社に伝わる獅子舞の道具一式を展示しています。

会期／8月6日(土)から約1年間

会場／穀蔵展示室

### ●ふるさと体験「お月見だんごづくり」

とき／9月10日(土) 午前10時～正午

定員／8組(申込み順) 参加費／1組500円

会場／旧金子家住宅

申込み／9月1日(木)～9月4日(日)に電話で

協力／市民学芸員

### ●第 27 回ふるさと探訪

#### 水子の古道と川沿いをたずねる

とき／10月1日(土) 午前9時15分～午後3時

定員／30人(申込み順) 参加費／500円(当日集金)

持ち物／昼食、飲み物、雨具

申込み／9月1日(木)～28日(水)に電話で

主催／資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

### ●古文書入門講座(全3回)

市内に残された江戸時代の古文書を解説しながら、当時の歴史や文化を学びます。

とき／9月17日(土)、9月24日(土)、10月1日(土)

午後1時～3時

定員／20人(無料、申込み順)

会場／講座室

講師／山野健一(当館職員)

申込み／随時。直接または電話で

### ●さつまいも掘り(試食あり)

とき／10月23日(日) 午前10時～正午

(小雨決行。悪天候の場合翌週に延期)

定員／30組(申込み順) 集合場所／旧金子家住宅前

参加費／1組1,000円。1人で参加の方は他の方と組んでいただく場合があります。

申込み／10月1日(土) 午前9時から電話で

主催／難波田城公園活用推進協議会、難波田城資料館

### ●拓本体験教室

石碑の文字を和紙に写しとる「拓本」を体験します。色紙に作品として仕上げ、持ち帰れます。

とき／10月30日(日) 午前10時～午後3時

会場／講座室

定員／10人(申込み順) 参加費／500円(材料代)

持ち物／昼食 申込み／随時。直接または電話で

指導／資料館友の会拓本部会

### ●ふるさと体験「わらぼうり作り」

とき／11月3日(祝) 午前9時30分～午後3時

定員／10人(申込み順、中学生以上)

参加費／300円

申込み／随時。直接または電話で

指導／いなほの会

### ちよつ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

9月25日(日)おはぎ  
10月23日(日)ふかし芋  
11月 お休み

田舎まんじゅう販売 第1、3日曜日 10:30～ お月見亭(予約制手打ちうどんランチ) 9/13, 10/18, 11/8 11:30～13:30
--

他に10月23日(日)午後1時30分から、古民家コンサートがあります。詳しくは、広報ふじみ10月号をご覧ください。

※各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどでお確かめください。



編集・発行／富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)